



国民春闘共闘

第6号

2015年3月6日

国民春闘共闘委員会

〒113-8462 東京都文京区湯島2-4-4 全労連会館

☎ 03-5842-5621 FAX 03-5842-5622

3・4 中央行動

大幅賃上げ！悪法阻止へ

3月11日の集中回答日、全国統一行動（50万人総行動）など春闘ヤマ場を目前にした4日、全労連・国民春闘共闘は、大幅賃上げ実現、労働法制の大改悪阻止、社会保障の拡充などをかけ中央行動に取り組み、全国から2700人が参加しました。日比谷野外音楽堂での労働者総決起集会を中心に、厚生労働省前行動、国会請願デモ、労働法制改悪反対国会議員要請を実施しました。労働者総決起集会には、この間労働法制の大改悪に反対する「雇用共同アクション」やJALの不当解雇撤回などで共同行動を重ねてきた全国港湾と全労協の代表が連帯あいさつにかけつけ、MIC（日本マスコミ文化情報労組会議）や航空連などの仲間が参加するなど共同の前進が示されました。また、宣伝行動や省庁・業界団体・国会議員要請、集会など各単産や共闘組織が終日にわたり様々な行動を展開しました。

15春闘勝利！労働者総決起集会

穏やかな日差しがふりそそぐ中、昼過ぎから開催した「15春闘勝利！大幅賃上げ実現、労働法制の大改悪反対3・4労働者総決起集会」には2700人が参加。要求をアピールする横断幕や風船、サンバイザー、そろいのジャンパーなどが会場を彩りました。



主催者を代表して国民春闘共闘・小田川義和代表幹事（全労連議長）があいさつ。はじめに、3月2日の労働政策審議会で労働者側委員の反対の中、安倍首相の要求に沿った残業代ゼロ法案の要綱が決められたことに対し強く抗議し、共にたたかうことを呼びかけました。そして、「春闘で物価上昇を上回る賃上げを勝ち取るためにこれからの一週間、力を集中するたたかいが

必要だ。平和と民主主義擁護、憲法改悪阻止にむけて安倍暴走政治にストップをかける草の根の運動を大規模に展開しよう」と呼びかけました。

連帯あいさつでは、全国港湾の糸谷欽一郎委員長が「全国港湾では雇用確保、職域確保とともに6%の賃金改善を求めて今年の春闘をたたかっている。昨年春闘では3波のストライキで労働条件改善を勝ち取ったが今年はさらに大きくしたい。非正規が4割を超えるような、このおかしな日本を共にかえる

ためにみなさんとともにたたかいたい。派遣法の改悪、労働時間法制など労働法制改悪反対のたたかいや日本航空の解雇撤回に向けてもともに頑張ろう」と述べ、全労協の金澤全労協の金澤壽（ひさし）議長は、『残業代ゼロ、過労死促進法』を何としても成立させないために頑張りたい。15春闘はすでに動き出している。大手だけの春闘であってはいけない。非正規の賃上げ、諸権利を共に勝ち取ってこそ春闘。課題はほとんどみなさんのものと同じ。それぞれが力を出して春闘をたたかいていこう」と力強く激励しました。

小池晃日本共産党副委員長・参議院議員の国会情勢報告に続いて、5組織が趣向を凝らした決意表明を行いました。JMIU・笠瀬隆司書記次長は、「今日3月4日を回答指定日に設定している。昨日時点で171支部が要求提出し、平均26,577円、率で8.95%



の要求を出した。家計簿調査などによる生活実態を経営に突きつけることが大事だ。スト権を背景に明日5日はリレーストや決起集会に取り組み、良い回答を引き出し、春闘を引っ張りたい」と賃金引上げにむけた決意を語り、東京医労連・長澤貴之さんは、「賃金引上げや増員とともに深刻な夜勤や交代制勤務の実態改善も要求だ。労働条件を良くして患者さんに寄り添いたい。政府は社会保障プログラム法に基づく改悪も進めている。また憲法改悪の問題も重要な課題。立ち上がる仲間を増やす春闘にしたい」と力を込めました。

各県ブロック国公の代表と登壇した国公労連・近畿ブロックの矢野芳彦事務局長は、「一にも二にも賃上げだ。公務労働者の賃上げのためにも、春闘で民間の仲間と共に奮闘したい。「給与制度の総合的見直し」という新しい賃下げ策打ちだされ、全国各地で導入反対の運動を展開している。京都の宣伝行動ではビラを受けとった学生が行動にも参加するなど手ごたえを感じている。目に見え音に聞こえ、目立つ取り組みをすすめたい」とイチゴの帽子をかぶり、「15（イチゴ）春闘で仲間を増やし奮闘する」と会場を沸かせました。生協労連の中井智美中央執行委員は、「非正規、正規問わず長時間・過密労働が蔓延している。非正規は低賃金なのでダブル、トリプルワークが当たり前。15春闘は賃上げのチャンス、いっせい地方選挙は政治を変えるチャンスだ」と呼びかけ、全労連女性部の仲間たちは、「日本の男女平等指数は、142カ国中104位、先進国では最低。女性の6割が非正規労働者。こんな現状を放っておいて安倍政権が女性の活躍というのは、安い労働力として女性を利用するためだ」と掛け合いのパフォーマンスで切実な要求を訴えました。

中央最低審議会審議委員の候補者が紹介され、国民春闘共闘の大谷充代表幹事（出版労連委員長）の閉会あいさつと団結ガンバローで集会を締めくくり、国会請願デモを意気高く行いました。労働法制改悪に反対する国会議員要請には140人が参加しました。

厚生労働省前要求行動 ～8時間労働制を壊すな！社会保障を拡充せよ～

労働者総決起集会に先駆け実施した厚生労働省前要求行動には1500人が参加し、「過労死を促進する残業代ゼロ制度は許さない」「最低賃金を全国一律制、1000円以上に」「医療・介護・福祉を守れ」などと訴えました。

国民春闘共闘・森田稔代表幹事(東京春闘共闘代表)が主催者あいさつ。「大幅賃上げ、暮らし、医療・介護など社会保障を守る、日本の、世界の平和を守るため 15 春闘をたたかう。国会では予算案や戦争準備法案や派遣法、残業代ゼロ法などの労働法制の改悪法案が審議される。本日の行動を一つひとつ成功させ、悪法を阻止しよう」と呼びかけました。

中央社保協・山口一秀事務局長が連帯あいさつ。「政府は『医療保険制度改革関連法案』の早期成立



をねらっている。昨年強行成立された『医療・介護総合法』は、1本1本の法律が重要な内容にもかかわらず、19本もの法律を一括で審議、決定し批判をあびたが、今回も同様のやり方で強行しようとしている。国民に寄り添う医療介護にむけて共同を大きくしていこう」と述べました。

情勢報告を行った国民春闘共闘・井上久事務局長(全労連事務局長)は、「政治と金の問題が次々と明らかになり、労働者・国民の力で安倍『暴走』政治を追い詰

めている」と述べました。また、労政審分科会が出した「残業代ゼロ」法案要綱の答申に、労働者の意見が付いたのは「前代未聞だ」と批判し、「8時間労働制の危機だ。法案がとおれば労働者は無権利状態に置かれ、企業の奴隷になる」と指摘。大幅賃上げと労働法制改悪反対を一体に掲げ、3月12、13日の全国統一行動に総決起する重要性を強調しました。

つづいて、3組織の代表が決意表明。「『福祉は権利』、時間給150円、月額2万円を掲げたたかう。政府は人材確保が必要というが、他産業と比較し月額10万円も安い。処遇改善を求め、国会要請行動を行う」(福祉保育労・西浦哲副委員長)、『給与制度の総合的見直し』は特定層にしわ寄せをする新しい賃下げである。5年間で10%もの定員削減では、メンタル疾患が増え、それを支える職員にも連鎖を及ぼす。また、臨時・非常勤職の削減は即解雇につながる。公務におけるブラック企業化を許さない」(国公労連・全労働・津川剛書記長)、「昨日まで最賃体験を1ヵ月間取り組んだ。カップラーメンとコンビニのおにぎりばかりで体重が3キロ減り、とてもつらかった。栄養不足で手のひらの皮がむけてボロボロにもなった。これでは人間らしい生活はできない。国は中小企業振興予算の大幅な増額と最低賃金の大幅引き上げ、全国一律最低賃金制を確立してほしい」(全労連・全国一般・宮城一般 菊池亮太さん)と訴えました。

この日は、東京春闘共闘の「中小企業庁交渉」「東京商工会議所要請」、建交労の「15春闘総決起集会」「省庁・ゼネコン本社要請」「国会議員要請」、自交総連の「国土交通省前座り込み行動」、日本医労連による「政府交渉」、全労連・全国一般の「中小企業庁・厚労省交渉」「資生堂アンフィニ銀座宣伝」、生協労連の「国会議員要請」「銀座パレード」、全労連公務部会・公務労組連絡会による「人事院前要求行動」「内閣人事局前要求行動」、全労連パート・臨時労組連絡会の「池袋早朝宣伝」「非正規議連国会議員要請」、全労連女性部が「菜の花行動」として「東京駅丸の内早朝宣伝」「内閣府要請」を行うなど各組織で多彩な行動が展開されました。

また、前日に日本医労連・自治労連・全大教による国会議員要請行動が行われ、翌日には、生協労連の新橋早朝宣伝や省庁・業界団体要請行動、建交労のゼネコン本社要請行動などが行われました。

まもろう憲法と暮らし ストップ暴走政治 実現しよう! 大幅賃上げと雇用の安定